

OUR CREW

兵庫医科大学のUI(ユニバーシティアイデンティティ)で策定したスローガン「EMPOWER THE PEOPLE～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」を実践している兵医ファミリーを紹介。
今回は2022年10月開院の梅田健康医学クリニックで勤務する富田先生と西井先生のエピソードを紹介します。

兵庫医科大学 健康医療学 臨床教授
兵庫医科大学病院 内視鏡センター長
梅田健康医学クリニック 副院長

とみ た とし ひこ
富田 寿彦

兵庫医科大学 健康医療学 助教
梅田健康医学クリニック 医師

にし い のり お
西井 謙夫

梅田健康医学クリニックの開院以来、健康診断や人間ドックのみならず、外来診療も行う2人。大阪梅田の中心地で、予防・治療の両面から多くの人を支えている。

EMPOWER THE PEOPLE BY

退く一歩もまた一歩

オフィス立ち並ぶ大阪・梅田の中心で 本院と同等の検査・医療を

充実の検査・診療をスピーディーに提供

富田 梅田健康医学クリニックは、本学の50周年記念事業の一つとして2022年10月に開院しました。人間ドックや健診だけではなく診療機能も備え、大学病院ならではの高度な技術を活かして患者さんの診察や未病の段階にある受診者の方のフォローまで行っています。

西井 大学の名を冠しながらも小回りの効くクリニックで、例えば検査を予定するにしても、本院をはじめとした大病院よりもスピーディーに予約を入れることができます。検査機器はCT、MRIなど本院と同等のものを入れており、AIを搭載した内視鏡や全身の超音波検査が可能な機器など、個人のクリニックにはないような最先端の機器も備えています。診療面でも常駐の内科医・消化器内視鏡医に加えて、本院から交代で各診療科の専門医が来て診察にあたっています。現役で働いている方でも仕事への影響を最小限に抑えられる日程で、本院と同等の医療を梅田の中心地で受けられるのは、他にはない強みだと思っています。

富田 診察前や会計の待ち時間が少なく、電子カルテの共有で本院との連携もスムーズに行えるため、近隣のオフィスワーカーだけでなく本院に通院している患者さんにご利用いただくこともあります。

兵庫医科大学を挙げての連携体制

西井 クリニック内の医師に限らず、本院の先生方にも多大な協力をいただいています。ここで診察をしていただいている先生はもちろん、内視鏡検査で採取した組織の病理検査や、放射線読影・診断についても本院の先生方のご協力で成り立っています。

富田 時期にもよりますが、放射線読影が月に1500件程度、病理検査が月150～200件程度発生しています。本院での業務に加えて、これだけの量の病理検査・読影をするのは大変な作業ですので、ありがたく思っております。

西井 おかげさまで、ゼロからのスタートにもかかわらず定期



的に通院される方が徐々に増えてきました。また近隣の診療所から検査依頼等のご紹介もいただけるようになり、2023年度には黒字化を達成。まず通過すべき目標はクリアできたと感じています。

目の前の患者をEMPOWERするために、 自らの成長を

西井 最近は、総合内科専門医の資格を取得しました。クリニックでの診療は臓器別に細分化して診療する前の段階になりますので、目の前の患者さんのどんな相談にも乗りたいと考えたからです。



このように、クリニックの安定のために何が必要で、自分に何ができるかというのを試行錯誤している最中です。一方で、患者さんの人生を支えるという点ではこれまでもこれからも全力です。検査をすると未病、未治療の患者さんが日々見つかります。様々な病気の兆候をとらえて確実に受診を促すことで、患者さんの健康や命を守ることに繋がっていきたいです。

富田 ここがまさに、当クリニックのもう一つの大きな特長です。人間ドックや健診結果から未病の患者をすくい上げ、スムーズに二次検査やその後の指導、診療などに繋がられるのは他にはない利点だと考えています。

西井 こうした特性を生かしながら、今後はより多くの方に利用していただくための施策に注力していきたいです。大阪市北区は人口10万人あたりのクリニック数が全国平均の5倍近い激戦区。良い医療を提供するだけでは「選んでもらえる」クリニックになることは難しいでしょう。課題に当たった時には、一歩引いて周りを見渡すことで脇に通れる道が見つかるかもしれません。広い視野で柔軟に取り組んで、様々な問題を解決していきたいです。

臨床の現場で医療の質を向上させる 医療クオリティマネジメントに係る研究

医療安全を中心に多職種連携、コミュニケーション、人が健康に生活するための社会との繋がりについてなど、
医療の質を向上させる要素を多角的に研究する医療クオリティマネジメント学。

高橋准教授はこの分野で、XRを活用した「多重課題」のトレーニングコンテンツの共同開発や、
CBR matrixを用いた社会的処方支援アプリの開発で注目を集めている。



兵庫医科大学 医学部 医療クオリティマネジメント学
准教授 高橋 敬子

研究テーマ XRを活用したトレーニングコンテンツやCBR matrixを用いた社会的処方支援アプリの開発
研究目標 医療業界のみではなく専門職協働を目指すレジリエントな社会システム創生

医療現場で起こりがちな「多重課題」をVRで学ぶ

医療現場で平時に起こり得る同時多発的な課題に対して、どのように対処するのか。このトレーニングができるのが、高橋准教授と株式会社積木製作が共同開発したXRコンテンツだ。XRとはクロスリアリティの略で、「VR（仮想現実）」「AR（拡張現実）」「MR（複合現実）」の総称を指す。本トレーニングはVRを活用しており、兵庫医科大学病院の現存するスタッフステーションや病室をハイクオリティなCGで再現している。

トレーニングはナースコールが鳴るところから始まる。病室に向かう途中に別の患者に呼び止められたときや、病室に到着した後の患者との会話の最中に行動の選択肢が登場。選択やその順番を誤ると有害事象が起きてしまうという仕組みだ。医療現場では患者対応など様々な課題が同時進行的に登場する。トレーニングを積もうにも実際には起こしてはならない事象だけに、VRの活用によってバーチャル上で状況を再現できることは強みだ。

開発において重要視したことは何か。高橋准教授は「振り返り」ができることが重要だと語る。「一度してしまった対応を巻き戻すことはできないので、その対応が本当に良かったかどうか振り返って考察することが現場では難しいのです」。また、実際には患者とこういことを話した、こういう対応をしたという記憶はあっても、その時系列はあいまいになることが多いという。VRコンテンツであれば選択肢に対する回答の履歴をたどりながら、どのような順番で対応すれば有害事象を回避できるかを、効果的に学習することが可能になる。このVRコンテンツは本学の学生と職員を合わせて500名弱が体験した。また、積木製作から他

の医療機関への貸し出しも相当数行われているという。

臨床に即した研究で医療の質を高める

高橋准教授は、このVRコンテンツ開発を専門としているわけではない。例えば、以前からCBR matrixを用いた社会的処方支援アプリの開発を進めており、現在も進行中だ。これは患者のアンケート結果を自動でCBR matrixに落とし込みグラフ化するもの。「健康増進」「教育リテラシー」「生計」「社会との繋がり」「生活に力を与えるもの」の5項目のマトリクスにすることで、患者自身がどの部分が弱い一目でわかるようになる。データは医療スタッフにも共有され、患者の弱い部分に対して強みを持つスタッフが自らアプローチし、支援するといった行動につながることを期待している。クオリティマネジメントと言われると質を一定にすることと思われがちだが、医療の場合は患者さん一人ひとりに対して必要なアプローチも異なる。人が幸せになるためにはどこにコミットすればいいのか。そのサポートをできるアプリを作りたいと考えて取り組んでいる。

このように、医療の質を上げるための取り組みを常識にとらわれず、幅広く進めているのが彼女の研究だ。「研究をする上で大切にしているのは、臨床に即していること、行動特性の振り返りができること、学外でも評価が得られる内容であることの3点です」と高橋准教授。循環器内科医でもある彼女らしい、現場に即したこだわりだ。このこだわりと熱意から、医療の質を向上させる最先端が次々と生まれている。

KEY WORD

医療クオリティ マネジメント学 MEDICAL QUALITY MANAGEMENT

「医療の質」を臨床を通じて学び研究する講座。医療の質の中核となる医療安全を中心に、多職種連携やコミュニケーション、有害事象の抑止メカニズム、人が健康に生活するための社会との繋がりなどについて研究する。

	HEALTH	EDUCATION	LIFE/FOOD	SOCIAL	EMPOWERMENT
4	よく眠っている （健康状態が良い）	よく勉強している （知識が豊富）	よく食べている （食生活が良い）	よくしゃべっている （コミュニケーション能力が高い）	よく頑張っている （自己肯定感が高い）
3	よく眠っている （健康状態が良い）	よく勉強している （知識が豊富）	よく食べている （食生活が良い）	よくしゃべっている （コミュニケーション能力が高い）	よく頑張っている （自己肯定感が高い）
2	よく眠っている （健康状態が良い）	よく勉強している （知識が豊富）	よく食べている （食生活が良い）	よくしゃべっている （コミュニケーション能力が高い）	よく頑張っている （自己肯定感が高い）
1	よく眠っている （健康状態が良い）	よく勉強している （知識が豊富）	よく食べている （食生活が良い）	よくしゃべっている （コミュニケーション能力が高い）	よく頑張っている （自己肯定感が高い）

2023
年度

ロンドン 語学研修

2024. 3.16 → 25

2023年度より国際交流センターが新体制となり、4つの学部を横断しての留学プログラムは初の試みです。

新たに低学年での語学研修がスタート。ロンドンで過ごした1週間の様子をお届けします。

専門分野の垣根を越えて
国際感覚を身につけた医療人へ

語学学校では、英語力を伸ばすと共に、様々な国籍の人達と交流することができます。それは国際性を身に付ける絶好の機会となるでしょう。医療博物館では、学芸員の解説を聴いて見学することにより、知識を深め、視野を広げます。学部の専門知識を活かして学生同士で教え合う場面もあり、専門分野の垣根を越えた学びを得ることができます。



引率教員
看護学部 講師
福田 範子



語学研修

自分の英語のレベルに合った少人数クラスに入り、主にスピーキングを実践練習する授業を受けました。英語力の向上だけでなく、異文化に触れる機会も得られました。ペアワークやディスカッションを通して、英語は勉強する科目というよりも、コミュニケーションの道具だという認識を持つことができました。



いろいろな国から来たクラスメートと仲良くなりました。



国内では体験できない 学びと体験に夢がふくらむ 実りある語学研修でした

本年から、鈴木敬一郎学長のご発案で4学部合同でのロンドン語学研修が開始されました。本研修は兵庫医科大学として初めての語学研修の試みで、低学年が対象です。現地では語学研修中に他国の学生と交流したり、さまざまな博物館を訪問するなど、国内では経験できない貴重な学びがあったようです。本研修が4学部合同で行われたことにも大きな意義があると思っております。ご引率頂いた看護学部 福田先生をはじめ、関係者の方々に心から感謝申し上げます。



国際交流センター長
脳神経外科学 主任教授
吉村 紳一

解剖学・病理学 博物館

イングランド王立外科医師会の博物館には、様々な臓器や筋肉などの標本が展示されています。標本の数や精度の高さに圧倒されました。CTやMRI画像でしか見たことのない、人体を水平断した標本も見学でき、学びが深まりました。



学芸員にたくさん質問をして、丁寧に解説して頂きました。

ナイチンゲール博物館

ガイドツアーに参加し、自分たちでも展示を見学しました。ナイチンゲールの業績や彼女が生きた時代の医療について学び、遠い世界の歴史的偉人を、身近に感じることができました。豊富な資料から、当時の看護の状況や、彼女の改革等、看護の歴史について多くを学びました。



クリミア戦争時代のランプも展示されています。

ハンテリアン博物館

18世紀英国の解剖医であるジョン・ハンターの2,000点を超える解剖標本を見学。また、アーカイブ資料をもとに外科手術の歴史をたどることができます。疑問がわいた時には、元外科医のガイドさんに解説して頂きました。



外科の分野について、さらに興味がわきました。

聖トーマス病院の旧手術室 ハーブ博物館

19世紀前半の手術室で、麻酔薬や防腐剤が使用される前の手術の様子や変遷を解説してくださいました。また、ハーブ博物館には、薬の原料が所狭しと並び、漢方薬の原料が、西洋でも薬に使われていたことが分かりました。



昔の薬の調合を体験しました。

科学博物館

3,000点以上の医学的遺物が展示され、初期の聴診器やポリオ患者の鉄の肺なども見学。19世紀の薬局を再現した部屋では、当時の薬局でのやり取りを疑似体験しました。医療全般に対する関心が芽生えました。



初期のMRIを間近で見学しました。

Voice

海外に通じる医療人になる夢が膨らみました。

医学部 医学科 3年 安東 由希

ロンドンでは積極的に英語を使う経験ができました。様々な医療博物館を訪れた中で、元外科医のガイドさんと英語で医療の話ができたのが印象的でした。海外の人との交流で自信がついたと同時に、よりスムーズな英語力、より深い医学への理解などの課題も感じました。海外に通じる医療人になりたいと強く思い、学習意欲が高まりました。



医療の歴史を体感し、学びが深まりました。

薬学部 医療薬学科 3年 井上 生成

英語中心の生活で、会話が難しくもどかしさを感じました。しかし10日間で「慣れる」という感覚がありました。帰国後も英語の面白さを感じ、国籍関係なく患者を助けられるのではないかと考えるようになりました。さらに、博物館で医療の変遷を見て、医療は世界と繋がれると感じました。これが医療現場で実践されているのだと実感しながら勉強しています。



目指したい看護師像が明確になりました。

看護学部 看護学科 2年 中川 菜沙

異文化に触れ、語学だけでなく多様な価値観を尊重する姿勢が身についたと思います。ロンドンに行ったからこそ、看護の歴史や使命の重さも体感できました。また医療博物館では、他学部の学生と異なる視点をもっているからこそ、知識を補いあうことで、学びをより深められました。こうした経験から、自分が目指したい看護師像がより明確になったと思います。



英会話への苦手意識を克服できました。

リハビリテーション学部 理学療法学科 3年 梶川 啓太

英語を話すのが苦手で、不安なまま授業に参加しました。ちゃんとした文法を話さないといけないと思い、言葉が詰まるが多かったのですが、勇気を出して話すと、真摯に聞いてくれたり、すぐ肯定的に先生が褒めてくれました。苦手なものを受け入れてくれる人がいることで、苦手意識よりも上手になりたいと思えるようになりますと実感しました。とても幸せな経験をしました。



◆財務の概要 –2023年度決算について–

1. 概要

2023年度は、新病院棟建設や持続的な投資を可能とする財務基盤の強化に向けて、基本金組入前当年度収支差額1,626百万円を期初予算に計上しました。不安定な国際情勢や円安進行による物価高騰、新型コロナウイルス感染症関連の公的支援の減少などのマイナス要因が重なる中、医療収支の大幅改善に加え、業務運営の効率化や経費コントロールの取り組みを一層強化した結果、基本金組入前当年度収支差額は前年度比42百万円減の4,075百万円と、ほぼ前年度水準を確保する決算となりました。

2. 事業活動収支計算書 2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位:百万円)					(単位:百万円)						
教育活動収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異	特別収支	事業収入の部	科目	予算	決算	差異
		学生納付金	7,342	7,239	103			資産売却差額	0	2	△ 2
		手数料	230	239	△ 9			その他の特別収入	61	143	△ 82
		寄付金	589	587	2			特別収入計	61	145	△ 84
		経常費等補助金	2,308	3,458	△ 1,150		事業支出の部	資産処分差額	15	41	△ 26
		国庫補助金	2,008	1,819	189			その他の特別支出	0	8	△ 8
		地方公共団体補助金	300	1,639	△ 1,339			特別支出計	15	49	△ 34
		付随事業収入	50,006	50,226	△ 220			特別収支差額	45	95	△ 50
		事業収入	1,610	1,753	△ 143	[予 備 費]		[34]			
		医療収入	48,396	48,472	△ 76			166			
事業活動支出の部	雑収入	685	754	△ 69			基本金組入前当年度収支差額	1,626	4,075	△ 2,449	
	教育活動収入計	61,160	62,501	△ 1,341			基本金組入額合計	△ 6,864	△ 3,955	△ 2,909	
	人件費	23,953	23,594	359			当年度収支差額	△ 5,237	120	△ 5,357	
	教職員等人件費	23,136	22,718	418			前年度繰越収支差額	△ 34,888	△ 34,888	0	
	退職給与引当金繰入額	736	798	△ 62			基本金取崩額	0	0	0	
	退職金	81	77	4			翌年度繰越収支差額	△ 40,125	△ 34,768	△ 5,357	
	教育研究経費	5,377	4,870	507			(参考)				
	医療経費	28,753	28,993	△ 240			事業活動収入計	61,452	62,913	△ 1,461	
	管理経費	1,537	1,277	260			事業活動支出計	59,826	58,838	988	
	徴収不能額等	0	30	△ 30							
教育活動外収支	事業活動外支出の部	教育活動支出計	59,619	58,764	855						
		教育活動収支差額	1,541	3,738	△ 2,197						
		受取利息・配当金	232	267	△ 35						
		その他の教育活動外収入	0	0	0						
		教育活動外収入計	232	267	△ 35						
教育活動外収支	事業活動外支出の部	借入金等利息	25	24	1						
		その他の教育活動外支出	0	0	0						
		教育活動外支出計	25	24	1						
		教育活動外収支差額	207	242	△ 35						
		経常収支差額	1,747	3,980	△ 2,233						

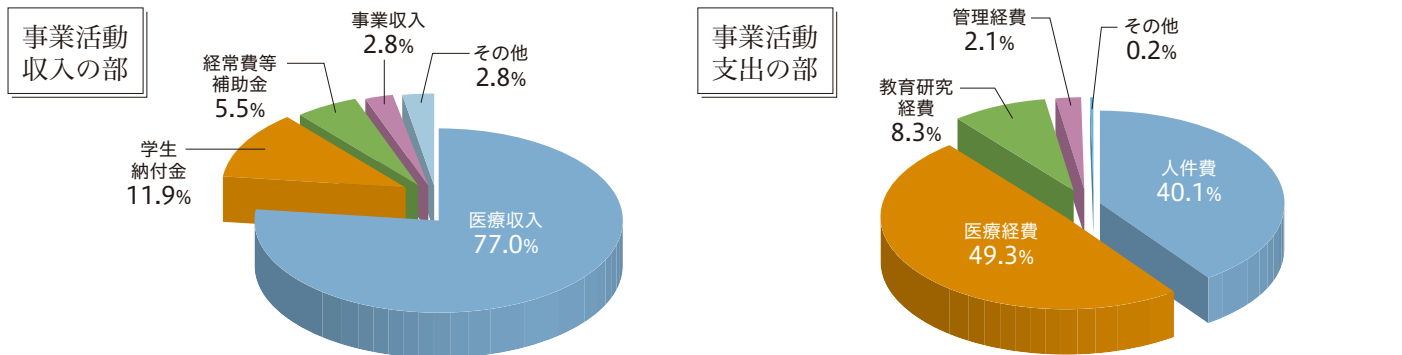
[教育活動収支]教育活動収入は62,501百万円となり、前年度比319百万円の減収となりました。教育活動収入の大半を占める西宮本院の医療収入は、外来患者が減少したものの、外来単価の上昇、病床稼働率の上昇が寄与し、前年度比2,726百万円増の44,736百万円となりました。一方で、大口の現物寄付が終了したことに加えて、経常費補助金が前年度比401百万円減少、また感染症対策に係る補助金が前年度比1,974百万円減少し、大口のマイナス要因が重なったことから、経常費等補助金は前年度比1

58,764百万円となり、前年度比904百万円の増加となりました。人件費は、看護職員の減少などにより職員人件費が減少したことに加え、退職給付関連費用が減少したことにより、前年度比492百万円減の23,594百万円となりました。教育研究経費は、奨学金、旅費交通費などが増加したものの、修繕費などが減少したため、前年度比160百万円減の4,870百万円となりました。また、医療経費は、診療稼働水準の改善に加えて、薬品費や医療材料費の増加などにより、前年度比1,696百万円増の28,993百万円となりました。この結果、医療収支差額は19,479百万円と、前年度比1,103百万円の大幅な改善となりました。

[教育活動外収支]教育活動外収支は、有価証券の積み増しなどにより、受取利息・配当金収入が増加したため、前年度比61百万円増の267百万円となりました。

[特別収支]開学50周年記念事業募金に係る施設設備寄付金などが減少したものの、旧立体駐車場等の解体に伴う資産処分差額1,152百万円の減少により、特別収支は前年度比1,117百万円増加し95百万円となりました。

2023年度決算構成比率



2. 資金収支計算書 2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位:百万円)				(単位:百万円)			
収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生納付金収入	7,342	7,239	103	人件費支出	23,868	23,564	304
手数料収入	230	239	△ 9	教職員等人件費支出	23,136	22,718	418
寄付金収入	607	621	△ 14	退職金支出	732	845	△ 113
補助金収入	2,308	3,496	△ 1,188	教育研究経費支出	3,981	3,202	779
国庫補助金収入	2,008	1,856	152	医療経費支出	26,310	26,608	△ 298
地方公共団体補助金収入	300	1,639	△ 1,339	管理経費支出	1,373	1,122	251
資産売却収入	0	2,003	△ 2,003	借入金等利息支出	25	24	1
付随事業・収益事業収入	50,006	50,226	△ 220	借入金等返済支出	905	880	25
事業収入	1,610	1,753	△ 143	施設関係支出	6,185	3,118	3,067
医療収入	48,396	48,472	△ 76	設備関係支出	1,388	1,264	124
受取利息・配当金収入	232	267	△ 35	資産運用支出	500	5,810	△ 5,310
雑収入	685	768	△ 83	その他の支出	9,013	8,845	168
借入金等収入	243	236	7	[予 備 費]	[92]		108
前受金収入	1,113	1,064	49		108		
その他の収入	12,368	12,107	261	資金支出調整勘定	△ 7,317	△ 7,995	678
資金収入調整勘定	△ 12,055	△ 12,091	36	翌年度繰越支払資金	11,023	14,014	△ 2,991
前年度繰越支払資金	14,284	14,284		支出の部合計	77,363	80,457	△ 3,094
収入の部合計	77,363	80,457	△ 3,094				

資金収支については、収入（資産売却収入含む）が前年度比3,639百万円増加したものの、支出（資産運用支出含む）が前年度比4,360百万円増加したため、翌年度繰越支払資金（現金預金）は、2022年度末14,284百万円より270百万円減少し、14,014百万円となりました。

3. 貸借対照表 2024年3月31日

(単位:百万円)				(単位:百万円)			
資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	82,935	80,577	2,358	固定負債	17,797	18,345	△ 548
有形固定資産	57,307	56,879	428	長期借入金	7,942	8,578	△ 636
土地	15,581	15,585	△ 4	退職給与引当金	7,393	7,363	30
建物・構築物	29,989	31,755	△ 1,766	長期未払金	377	190	187
教育研究用機器備品	7,294	7,961	△ 667	長期前受金	2,085	2,215	△ 130
管理用機器備品	119	141	△ 22	流動負債	10,202	11,005	△ 803
図書	399	389	10	短期借入金	871	880	△ 9
建設仮勘定	3,910	1,029	2,881	1年以内償還予定学校債	10	10	0
その他	16	19	△ 3	未払金	7,887	8,670	△ 783
特定資産	8,777	8,274	503	前受金	1,194	1,218	△ 24
退職給与引当特定資産	1,000	1,000	0	その他	240	227	13
教育施設設備等引当特定資産	200	200	0	負債の部合計	27,999	29,350	△ 1,351
第2号基本金引当特定資産	3,006	2,503	503	純資産の部			
第3号基本金引当特定資産	4,571	4,571	0	科目	本年度末	前年度末	増減
その他の固定資産	16,850	15,424	1,426	基本金	124,441	120,486	3,955
その他	16,850	15,424	1,426	第1号基本金	113,093	109,641	3,452
流動資産	34,738	34,370	368	第2号基本金	3,006	2,503	503
現金預金	14,014	14,284	△ 270	第3号基本金	4,571	4,571	0
有価証券	9,100	7,400	1,700	第4号基本金	3,771	3,771	0
その他	11,624	12,686	△ 1,062	繰越収支差額	△ 34,768	△ 34,888	120
資産の部合計	117,672	114,948	2,724	翌年度繰越収支差額	△ 34,768	△ 34,888	120
				純資産の部合計	89,673	85,598	4,075
				負債及び純資産の部合計	117,672	114,948	2,724

※注記 減価償却額の累計額 64,486百万円
基本金未組入額 8,763百万円

2023年度末の貸借対照表の純資産（資産の部－負債の部）は、大幅な黒字決算を背景に前年度末比4,075百万円増の89,673百万円となりました。資産の部は、建物・機器等の減価償却が進んだ一方で、新病院棟建設に伴う建設仮勘定や資金の効率的運用による有価証券等の増加によって、前年度比2,725百万円増加し117,672百万円となりました。負債の部は、リース物件の増加により長期未払金が増加したものの、借入金、未払金などが減少した結果、前年度比1,351百万円減少し27,999百万円となりました。なお、2023年度末の総保有資金残高は、前年度比3,540百万円増の41,316百万円となりました。

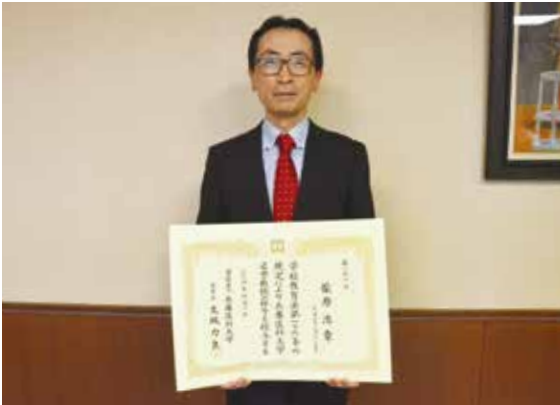
◆表彰・受賞など

◆兵庫医科大学 名誉教授 称号授与

兵庫医科大学の教育もしくは学術上の功績が特に顕著であった先生方に対して、その功労を顕彰するため、名誉教授の称号を授与しました。2023年の称号授与者は次の6名です。



越久 仁敬 名誉教授
生理学 生体機能部門



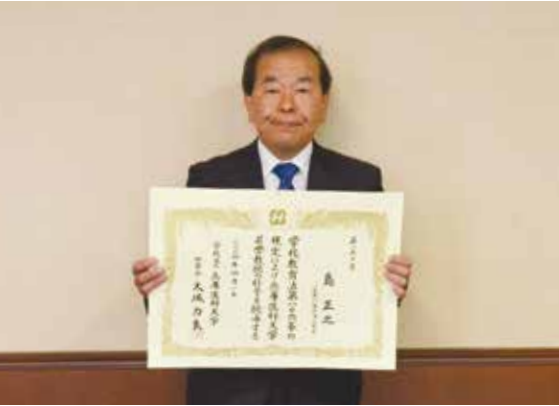
柴原 浩章 名誉教授
産婦人科学



小柴 賢洋 名誉教授
臨床検査医学



長谷川 誠紀 名誉教授
呼吸器外科学



島 正之 名誉教授
公衆衛生学



西山 信好 名誉教授
薬学部

◆兵庫医科大学 開学50周年記念事業募金 状況報告

「兵庫医科大学開学50周年記念事業」のための募金活動を開始し、教職員・名誉教授の方々をはじめとして、後援会（保護者）、同窓会（緑樹会、海鳥会）、企業等法人、関連病院など幅広い方々から温かいお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただき、改めて感謝の意を表したいと存じます。

～2024年6月30日						
区分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
申込	224	765,690,000円	638	286,828,888円	862	1,052,518,888円
入金	224	765,690,000円	638	285,623,888円	862	1,051,313,888円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧（順不同）2024年4月1日 ～2024年6月30日

企業等法人（3法人）	
●ご芳名のみ（1法人） 有限会社宝塚新樹園 様 （匿名2法人）	
同窓会〔緑樹会〕（1名）	
●ご芳名のみ（1名） 天津 治子 様	
保護者（1法人）	
●ご芳名のみ（1法人） 医療法人 伸々会 せきクリニック 様	
その他個人・団体（1団体、8名）	
●ご芳名・金額記載（1団体、2名） 第14回日本炎症性腸疾患学会学術集会 様 2,000,000円 林 孝司 様 70,000円 駒澤 伸泰 様 50,000円	
●ご芳名のみ（3名） 高田 京子 様 高橋 清 様 山田 浩由 様 （匿名3名）	
教職員等（7名）	
●ご芳名のみ（2名） 中川 善夫 様 舟木 壮一郎 様 （匿名5名）	

新病院棟建設だより

新病院棟建設工事は2026年秋の開院を目指し着々と進んでいます。2024年6月の工事状況をお伝えします。

◆主な工事内容

新病院棟では建物の基礎部分に免震装置を設置した基礎免震構造を採用しています。現在は免震装置下部の基礎部分配筋工事や免震装置用プレート設置、及び型枠工事が進行されています。基礎部分の工事が完了すればいよいよ免震装置が取り付けられ、新病院棟1階部分の躯体工事が開始されます。



キャンパス通信 神戸キャンパス編

各キャンパスの日常やイベントにまつわる話題を紹介します。

今号では、神戸キャンパスから学生相談室主催のイベントの様子をお届けします。



▶ 学生相談室イベント 「ウェルカムパーティー」を 開催

5月14日(火)に、神戸キャンパス学生相談室主催のイベント「ウェルカムパーティー」を、くつろぎスペースひだまりで開催しました。スポンジケーキ台とホイップクリーム、フルーツにお菓子を用意して、新入生も先輩学生も一緒になってケーキのデコレーションをしました。それぞれのグループで力を合わせて可愛い素敵なケーキが完成しました。完成後はそれぞれの学部についての手話をレッスンしました。ケーキとティーを楽しみながら親睦を深めていたようです。新入生の皆さんに来年先輩学生として参加してもらえたらうれしいですね。

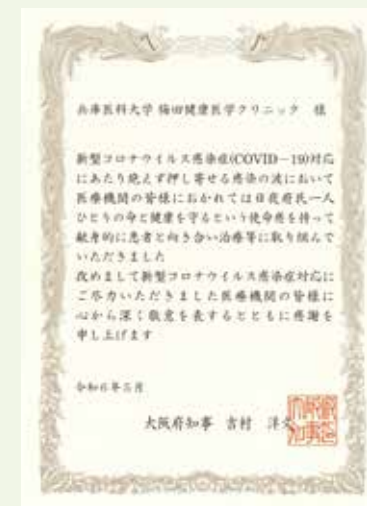
キャンパス通信 梅田キャンパス編

各キャンパスの日常やイベントにまつわる話題を紹介します。

今号では、梅田キャンパスから新型コロナウイルス感染症対策においての貢献が認められた話題をお届けします。

▶ 大阪府知事より 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 対応において感謝状をいただきました

大阪府知事より、当クリニックでの外来診療を通して新型コロナウイルス感染症対策・感染拡大防止に尽力してきたことに対し、感謝状をいただきました。新型コロナウイルス感染症は5類感染症へと移行しましたが、今後もコロナウイルスに限らず感染症対策に努め、診療を続けてまいります。



キャンパス通信 篠山キャンパス編

各キャンパスの日常やイベントにまつわる話題を紹介します。

今号では、篠山キャンパスから年に2度行われる環境整備の様子をお届けします。

▶ 篠山キャンパス敷地内の環境整備を実施

5月18日に篠山キャンパスの環境整備を実施しました。

篠山キャンパスでは毎年春と秋に敷地内に生い茂る草木を整えています。この環境整備には職員だけではなく、地域の方々もボランティアとして参加してくださっており、普段交流のない職員や地域の方々と交流する貴重なイベントとなっています。



わたしを EMPOWER するもの

Vol.1

医療を通じて人を、そして社会をEMPOWERし続ける本法人の職員たち。このコーナーでは、そんな職員たちにとって欠かせないものを1つご紹介。初回は「OUR CREW」で登場した梅田健康医学クリニックの最前線で活躍する西井先生にお話を伺いました。常に周りへの心遣いがあり、とっても頼りになる西井先生。意外な一面を知ることができるかも…。



健康医学 助教
兵庫医科大学 梅田健康医学クリニック 医師

にし い のり お
西井 謙夫



同僚とのひと時

電車に乗る前にちょっと一杯

自分たちのことは自分たちで労い、褒める

梅田健康医学クリニックは阪神・大阪梅田駅の上ですので、少し歩けば多数のお店があります。「一日の内視鏡検査件数が過去最多となった」「月の外来の収益が増えた」など、嬉しいことがあった際に、仕事帰りに同僚とささやかに祝杯を上げることはクリニックの立地を活かした、息抜き方法だと思っており、ちょっとしたことですが良い風通しになり、リフレッシュ効果は絶大です。それぞれの帰る路線が異なるため、短時間でサクッと解散できるのも良いところです。

OUR CREW はP15へ